

まちづくりの考えは？

問 「ふるさと納税」の活用を

答 前向きに検討する



酒向 弘康 議員

制度発足から5年が経過した。現状と今後のあり方を問う。

問 町外からの寄付と、本町在住の方が町外へ寄付されている件数と金額は、

ふるさと納税の状況

| 年 | 町外から | 町外へ |
|-------|----------|-------------|
| 平成21年 | 3件 14万円 | |
| 平成22年 | 2件 301万円 | |
| 平成23年 | なし | 168件 1587万円 |
| 平成24年 | なし | 36件 349万円 |
| 平成25年 | なし | 36件 224万円 |

答 総務部長 「ふるさと納税の状況は、表のとおり。



つどい作業所で花づくり

問 本町へ寄付されている方への対応は。

答 ふるさと寄付金受領証明書と礼状を送付。

問 「広報こつた」の送付など寄付の感謝を表わす考えは。

答 広報こつた、町勢要覧、観光パンフレットなどの同封を検討する。

問 「つどい作業所の花木の栽培と販売」これをお礼とし販路拡大・雇用の確保を。

答 返礼品としてふさわしいか、総合的に判断する。

問 町特産品のお礼は、町長の公約「農産物のブランド化の確立・農業の再始動」への近道と考えるが、今後の活用の考えは。

答 町長 「春はタケノコやハウス物、夏はナス、ブドウ、イチジク、秋はナシや筆柿と色々な農産品がある。

前向きに検討する。

問 「幸せリーグ」への参加を

答 町独自の幸福度を追究する

「幸せが持続的に実感できる まちづくり」に向けた施策の展開を問う。

問 住民アンケート結果で「住みやすい」と84・5%の方が回答した。この結果をどう捉えているか。

答 企画部長 「自然環境や人間関係の良さ、生活の利便性を感じている。

問 全国の市の「住みよさランキング」からみて、本町はどこに位置しているか。

答 全国790都市の中で、岡崎市130位、西尾市123位、蒲郡市355位。

住みよさランキングでは、岡崎市、西尾市に劣っていないと考える。

問 「幸せ感」を満たすための課題と今後必要な取り組みは。

答 近隣市との比較で、利便度、住宅水準充実度が低いことが課題。

総合計画の施策を着実に取り組むことが必要。

問 住民の幸福実感向上を目指した、全国53市町村が加入している「幸せリーグ」に参加する考えは。

答 町長 「今までの歴史、文化をもとにした形での幸田町独自の幸福度を追究したい。



中根 久治 議員

問 医療機関の充実を

答 引き続き誘致に取り組む



健診風景

問 町民の声は、昭和54年から、どの位置にランクされているか。

答 **健康福祉部長** 住民意識調査で、医療機関の充実度は常に1位から3位。

問 長い間の町民の声に、どのような見解を持ち、対応してきたか。

答 医師会、医療機関、さまざまな機関に対して働きかけをした。

問 病院誘致課を設置し、積極的な姿勢を示す考えは。

答 設置する考えはない。

問 病院誘致条例を制定して、町としての受け皿を用意する考えは。

答 必要であれば、条例や要綱などを検討する。

問 「子どもの産めない幸田町」になっている。産婦人科誘致を最優先に。

答 引き続き誘致に取り組んでいく。

問 幸田町の救急車の搬送先はどの市にどれだけか。

答 平成25年中は、1428人。

問 町内15人、岡崎市930人、安城市193人、西尾市145人、蒲郡市130人、他4市に15人。

問 町保健センターに一次救急医療機関の機能を。

答 費用、問題もさまざまあるので、現状を充実していく。

問 幸田町史研究会の発足を

答 研究に努めたい

問 町史の調査研究と次の「幸田町史」編纂のため、研究会を発足させ、民間の力を生かすことは、研究に努めたい。

答 深溝の松平家忠は「のぼりの城」の城主であった。研究会を活用し、文化の発信を。

問 文化財の調査研究と次

答 文化財保護委員会と研究を重ねていく。

問 文化財の調査対象項目の情報を、しっかりと対応していく。

問 深溝断層の風化がすすんでいる。防止策を。

答 草刈りや見回りなどをしっかりとらない現状を維持していく。

問 文化財の調査研究と次の「幸田町史」編纂のため、研究会を発足させ、民間の力を生かすことは、研究に努めたい。

答 深溝の松平家忠は「のぼりの城」の城主であった。研究会を活用し、文化の発信を。

問 文化的魅力がないとの町民の声が多い。文化は町の品格であり、文化財への対応を問う。

答 幸田町から鍛冶屋さん



水野 千代子 議員

問 墓地公園の建設を

答 用地確保を前提に取り組む

国の人口推計は減少傾向にある中で、本町は上向き状態にある。

町民は将来にわたって、墓地の取得を求めている。

共同墓地は何カ所、その区画数は。

答 環境経済部長 行政区管理が69カ所で4500区画ある。

問 空き区画数と、共同墓地環境整備事業補助金の内容は。

答 空き区画は276区画あり、給排水設備、擁壁工事、区画造成などで対象経費の1/2で最高100万円を補助。

問 共同墓地の中で、区民以外でも取得できる場所はあるか。

答 1行政区あるが、自身で整備が必要。

問 共同墓地のない区はどこか。

答 行政区外の寺院で確保



岩堀の共同墓地

されている。

問 過去に墓地建設の話があったが。

答 平成19年に墓地公園基本構想を作成したが、諸般の事情で一旦白紙。

平成23年に寺院の跡地を検討するが白紙となる。

問 町民のニーズに合った墓地公園の建設を。

答 用地確保を前提に具体的に取り組んでいく。

問 中央公園に健康遊具ゾーンを

答 設定を考えている

健康遊具は、散歩の途中でストレッチや体のツボを刺激したり、筋肉を鍛えるなど日常生活での健康づくりに役立つ遊具である。

問 設置場所と種類は。

答 建設部長 中央公園、幸多の杜、深溝の運動公園、相見地区内の公園に設置。種類は①腹筋ベンチ②背のばしベンチ③ストレッチ器具④バランス器具⑤複合ストレッチベンチがある。

問 遊具の利用方法や効果を説明する看板を。

答 専用看板の設置を検討する。

問 中央公園の健康遊具を1カ所にまとめ、種類を増やし、健康遊具ゾーンをつくらないか。

答 健康ゾーンの設定を考え、新設更新の時期に増設する。

問 彦左公園に健康遊具の設置を。

答 利用者の意向を把握して、健康遊具の設置を考慮する。

問 永野公園のトイレを、くみ取り式から水洗トイレに改修を。

答 平成28年度までに整備をする。



志賀 恒男 議員

問 通学路安全対策の充実・拡大を

答 啓発看板・カラー舗装で対応



朝の集団登校（上六栗地内）

通学路のグリーンベルトは、交通安全の効果大。

問 今後のグリーンベルト設置範囲の拡大計画は。

答 建設部長 13・78 kmを

実施し、今年度2.4 kmをす

めている。今後、中学

校の通学路もすすめる。

問 通学路の途中にある、

小さな交差点の安全対策

は。

答 注意喚起の啓発看板や

カラー舗装などで対応。

問 交差点のカラー舗装化

の推進を。

答 警察庁から、交通事故

抑止の目的として有効と

カラー舗装の設計指針が

出され、12カ所の町道交

差点に設置した。通園、

通学路に積極的に取り組

む。

問 通学路で、U字溝に蓋

が突然途切れている所が

ある。安全点検時にチエ

ックシートを使い、見落

としの防止を。

答 交通安全総点検の統一

的な基準で、チェックリ

ストのグレードアップを

図る。

問 事故や災害を防ぐ手法

として、危険予知活動が

ある。担当部署を決めて

推進を。

答 総務部長 各部署と連

携をとってきたが、一度

検討したい。

問 豊坂学区に医療施設を

答 よく検討したい

答 人口に対しての充足数

は定められていないため

基準がない。岡田病院を

含む19医院がある。

問 町内の歯科医の数は足

りているのか。

答 14歯科医院。

問 豊坂学区には、医院・

歯科ともに1軒も無い。

町の施策は。

答 地域に対しての偏りは

若干ある。学区を特定し

た診療所の誘致をしとき

た経過はない。

今後、充実のため視野

に入れながらすすめたい。

答 町長 医師会との調整

もありよく検討したい。

問 従業員50人以上の事業

所には、産業医が必要。

適正な数は確保されてい

るか。

答 健康福祉部長 岡崎医

師会で産業医の研修をお

こなっており確保に努め

厚生労働省は、紹介状を

持たずに大病院を受診する

患者に、新たな負担金を求

める制度を検討している。

問 実施された場合、町民

への影響は。

答 健康福祉部長 初診料

全額負担と療養のための

時間を費やす影響がある。

問 町内のかかりつけ医の

数は足りているのか。

答 健康福祉部長 初診料

全額負担と療養のための

時間を費やす影響がある。

都築 一三 議員



問 商店街の街路灯整備に援助を

答 商工会と協議していく



幸田駅前通りの街路灯

最近のニュースでは、凶悪事件が増えている。人の命は尊いものである。町内の防犯灯とLED化率は。

問 防犯パトロール車の民間寄付の考えは。

答 環境経済部長 商工会、商店のオーナーと協議し調査・検討する。

問 防犯パトロール車の民間寄付の考えは。

答 総務部長 それぞれの団体で、検討していただきたい。

問 大草防犯夜廻り隊が10周年を迎えた取り組みは。

答 資機材購入費用の補助やパトロールにかかる警察への手続きを支援している。

最近のニュースでは、凶悪事件が増えている。人の命は尊いものである。町内の防犯灯とLED化率は。

問 防犯パトロール車の民間寄付の考えは。

答 環境経済部長 商工会、商店のオーナーと協議し調査・検討する。

問 防犯パトロール車の民間寄付の考えは。

答 総務部長 それぞれの団体で、検討していただきたい。

問 大草防犯夜廻り隊が10周年を迎えた取り組みは。

答 資機材購入費用の補助やパトロールにかかる警察への手続きを支援している。

中小企業庁の「商店街まちづくり事業制度」を活用し、街路灯の整備、撤去費用の援助はできないか。

答 制度が活用できるかを含め、商工会と協議していく。

※無電極ランプ（LVD）電極とフィラメントがなく、電磁石によって電流の流れを生み出し発光。

問 廃食油を資源として活用を

答 利活用の条件など検討していく

BDF（バイオディーゼル燃料）活用環境に配慮したまちづくりを期待。

問 廃食油の回収は。

答 環境経済部長 平成20年度3000kg、23年度3400kg、25年度4200kg。

問 公用車で、BDF対応ができる車は、何台あるか。

答 ディーゼルエンジン車両は27台。BDF仕様車はない。

BDFを使用する計画はあるか。

問 BDFを使用する計画はあるか。

答 メリット・デメリットなどを検討する。

問 ごみステーションに回収箱を置いて、廃食油の回収を。

答 箇所数が多く、油漏れの対応など問題があり、考えてない。

問 電動式バイオ家庭用ごみ処理機の補助金とPR方法は。

答 価格の1/2、上限3万円。普及をすすめる。

問 廃食油は他にどんな利用方法が考えられるのか。

答 石けん、タイヤの添加剤などに活用し、商いとなっているものもある。

問 廃食油を資源として活用していく考えは。

答 収集の状況、利活用の条件など検討していく。



丸山 千代子 議員

問 子ども安心カードの導入を

答 現在の体制で対応

食物アレルギーのある児童が給食後に死亡する事故が発生。消防と緊急時の連携が必要である。

保育園・学校で病気やけがによる救急搬送の時、既往歴やアレルギー症状の有無などを正確に伝え、迅速な処置が受けられる「子ども安心カード」の導入を問う。

問 厚労省ガイドライン、消防庁通知の周知を。

答 消防長 救急救命士にエビペンの使用方法の講習を受講させ、適正な使用を図っている。

問 エビペン処方的人数。

答 8人を把握している。
住民こども部長 保育園で3人把握している。
教育部長 学校では5人を把握している。

問 学校・保育園と消防の連携体制を。

答 住民こども部長 子どもごとに書類を作り、救急搬送をした場合に消防職員に伝達をする。

教育部長 学校においては健康調査票を作成し対応している。

問 群馬県渋川市で、ひと目でわかる「子ども安心

カード」を取り組んでいる。町でも導入を。
答 現在の状況で対応していく。

問 Aコープ跡地の工場進出の対応

答 開発・建築指導で対応

Aコープの店舗が5月で閉鎖し撤退した。この跡地に工場進出の計画があり、住民から不安の声がでている。

建物は、町の補助金を投入した施設である。対応を問う。

問 土地・建物面積と所有者数は。

答 建設部長 平成7年当時の土地の面積は、2万1208㎡、建物は建築面積4682㎡、延床面積は6011㎡。地権者は19人である。

問 用途変更にもなう補助金の残存期間は。

答 環境経済部長 財務省令によると償却期間34年の内残存期間は15年6カ月ある。

問 跡地は、第1種中高層住居専用地域と第2種住居地域で規制がある。町の対応は。

答 建設部長 第1種・第2種が混在しているが、過半を占める第2種住居

地域となる。当地域にも各種の規制があり、JAにもしつかり引き継ぐように伝えてある。

問 生活環境悪化が懸念される。町の指導と保全を。
答 開発指導、建築指導の中で対応していく。

そのほかの質問項目

● 子ども・子育て支援新制度



Aコープ跡地の状況



伊藤 宗次 議員

身近な施設にAED設置を

最大の事項として検討する

問 地域集会所にAED設置を。

答 **総務部長** 桜坂のコミュニティホームのみに設置している。

問 AED適正配置ガイドラインの内容は。

答 **消防長** 駅、スポーツ関連施設、大規模商業施設など16例。

問 住民の命を守る責務は町にある。

答 設置義務はない。設置は補助事業なのか。要綱にもとづいた補助

問 24時間営業のコンビニ店舗数と運営会社は何社か。

答 コンビニは21店舗で、6社が運営。

問 尾張旭市は市内全コンビニに市の費用で設置した。運営会社と協議したか。

答 接触は現在していない。使用頻度と設置費用の



コンビニ内のAED（尾張旭市）

対比は、費用対効果論だ。命を費用対効果で測るのか。

答 人命救助、救命率の向上を第一としている。

問 23区の主幹的施設と全コンビニに町の責任と費用で設置を。

答 AEDの設置は消防本部の予算。

問 問題点は何か。

答 ほかの消防業務にかかわる。

問 問題解決は命を守る。知恵と工夫で設置を。

答 尾張旭市の例を参考に、今後検討する。

問 休日、夜間、閉庁日も水道栓開閉を

答 今後検討する

問 なぜ閉庁日に水道栓の開閉をしないか。条例にない対応だ。

答 **環境経済部長** 条例で給水契約の申し込みは、閉庁日を想定している。

問 役所の勝手な判断だ。誰もが町のホームページを見ていない。

答 閉庁日は職員が常駐せず対応できない。住民の意見を軽んじてはいない。

問 閉庁日も休日、夜間の開栓の問題とは。

答 人員配置の問題と庁舎

問 のコンピュータが使えず、当日の料金確認ができない。

答 水道は重要なライフラインだ。電気、ガスは休日でも対応している。

問 委託とコンピュータのパッケージ化ができれば可能。

答 閉庁日に対応できない。住民が悪いとは……心が痛まないか。

問 近隣市の中で、蒲郡市は委託業者が対応。

答 対応する業者が待機する場所は、高齢者の就労の場を奪った町長。トイレ減溶化施設がある。活用を。

問 場所を確保しても、予算とコンピュータの問題がある。

答 上から目線を改め、閉庁日も開閉栓実施を。

問 今後検討する。